

## 高崎経済大学地域科学研究所

## ニュースレター No.5

目次	2年度目の終わりに際して	(1)
	2016 年度事業報告	(2)
	研究プロジェクト新刊案内	(24)
	地域科学研究所動静	(25)
	編集後記	(25)

## 2年度目の終わりに際して

所長 西野 寿章

2015年4月に旧産業研究所と旧地域政策センターを発展的に統合して発足した地域科学研究所は、2年度目を終えようとしています。2015年度は、統合した2つの研究機関で進められていた事業を継続させたため、地域科学研究所としての独自性は出せなかったのですが、2015年度中に検討し決定した基礎研究と地域貢献事業の新規事業が、2016年度から一斉にスタートしました。

基礎研究の中心であるプロジェクト研究は、これまで研究費はなく、所員の「手弁当主義」によって進められてきましたが、2016年度から研究費(1件年間50万円)が付くようになったことは大きな前進でした。2016年度から3年間、全国的に問題となっている「空き家対策研究」(研究代表者・岩崎 忠所員)に所員と学外の研究者に取り組んでいただいております。2015年度に組まれた地域科学研究所発足記念研究プロジェクト「富岡製糸場と群馬の蚕糸業」の続編として、2016～2017年度の2年間「日本蚕糸業の縮小過程と世界遺産地域の振興」(研究代表者・佐滝剛弘特命教授)にも取り組んでいただいております。

地域貢献事業では、秋だけ開催していた公開講座を春(2016年度は6～8月)にも開催する

ようになりました。公開講座は、市民、県民の生涯学習に資することを目的としています。従来は、一つのテーマを設定して公開講座を開催していましたが、研究所は多様な専門分野を持つ所員の集まりであることから、全体テーマを「現代社会への多面的アプローチ」として、様々な専門家の最新の研究成果が披瀝されました。また、高崎市が地方都市+農村+山村を統合した広範な地域となったことをうけて企画した、市域の歴史や産業、文化を現地に出向いて学ぶ「地域めぐり」、高崎市民が興味と関心を持って進めている勉強の成果の発表を中心とした「地元学講座」は、これまでにない市民参加型の新しい事業となりました。加えて、自治体職員研修の一環として開講した「地域経営セミナー」も高崎市や群馬県内の自治体の職員の研修の場として活用していただきました。

2016年度は、一気に新事業がスタートしたことから忙しい思いをしましたが、いずれの新規事業も好評を得て、大学として行うことができる地域貢献の方向性は間違っていなかったと意を強くしています。今後は、さらに改善を重ねて、より充実した地域貢献事業としていくことが必要だと考えています。

最後に、旧産業研究所の最終研究プロジェクト「高崎市製造業の存立基盤に関する研究」が最終年を迎え、『地方製造業の展開－高崎もの

づくり再発見-』が公刊されました。この研究プロジェクトの発足の契機は、高崎市立高崎経済大学附属高等学校がスーパーグローバルハイスクールに指定されたことにありました。世界で活躍する人材を育成するために、高校生に地元企業の国内外での活動を学ばせる文部科学省のプログラムです。これまで産業研究所では、高崎市の製造業に関するまとまった研究が行われていなかったことから、経営史、経営学、開発経済学、国際経済学、財政学、地理学などの研究者が地元企業の取り組みを取材し、高崎商工会議所の支援もいただいてまとめました。私もメンバーの一人として参加し、高崎発のオンリーワン製品の開発過程を学ばせていただきました。ただ、体系的、科学的に研究をまとめられたわけではなく、今後、地域経済の担い手としての地元企業、とりわけ中小企業の研究は継続して取り組むべき課題だと認識しています。この研究プロジェクトの研究成果の刊行によって、1957年以来、59年にわたる産業研究所の歴史が閉じられることには一抹の寂しさを覚えますが、2つの研究機関の歴史を基礎として、地域科学研究所をより発展させていくことが公立大学である本学の一つの使命だと強く思っています。

所長としての2年間の任期が終わります。まだまだ改善の余地は残されていますが、地域科学研究所のスタイルが出来上がったように思っています。新展開にご尽力いただいた所員各位、事務局各位に衷心より感謝申し上げます。

## 2016年度地域科学研究所事業報告

### 1 研究プロジェクト

《産業研究所からの継続プロジェクト》

- (1) 「現代の地方都市における製造業の存立基盤に関する研究-群馬県を事例として-」

○プロジェクトリーダー：西野 寿章地域政策学部教授

○研究期間：2014年度～2016年度

研究プロジェクト報告書

『地方製造業の展開-高崎ものづくり再発見-』

2017年3月30日 日本経済評論社刊

- (2) 研究プロジェクト報告書合評会

『自由貿易下における農業・農村の再生-小さき人々による挑戦-』

(2015年3月日本経済評論社刊)

プロジェクトリーダー：宮田剛志地域政策学部准教授

日時：2016年12月10日

15時45分～18時45分

場所：本学図書館ホール

評者：橋口 卓也氏(明治大学農学部准教授)

参加者数：10人

《地域科学研究所プロジェクト》

- (1) 「空家特別措置法施行後の空き家対策に関する総合的研究」

○プロジェクトリーダー：岩崎 忠地域科学研究所員(地域政策学部准教授)

○研究期間：2016年度～2018年度

公開講演会

第1回「空き家対策の現状と課題」

日時：2016年7月30日

14:00～16:00

場所：本学1号館132教室

講師：米山 秀隆氏(富士通総研主席研究員)

- 参加者数：43人  
学名誉教授)
- 第2回「空家法実施の現状といくつかの法的論点」  
日時：2016年8月27日  
14:00～16:00  
場所：本学1号館142教室  
講師：北村 喜宣氏(上智大学法科大学院教授)  
参加者数：27人
- 第3回「空き家問題の原因と対策－私法的観点から－」  
日時：2016年9月3日  
14:00～16:00  
場所：本学1号館142教室  
講師：西口 元氏(早稲田大学大学院法務研究科教授)  
参加者数：36人
- (2)「戦後の群馬県の蚕糸業の動向分析および絹遺産の地域振興への活用策に関する研究」  
○プロジェクトリーダー：佐滝 剛弘特命教授  
○研究期間：2016年度～2017年度  
研究会 プロジェクトメンバーによる研究報告および討論
- 第1回  
日時：2016年10月5日  
15:00～18:00  
場所：本学地域科学研究所  
コメンテーター：石井 寛治氏(東京大学名誉教授)
- 第2回  
日時：2017年3月1日  
14:30～17:30  
場所：本学地域科学研究所  
コメンテーター：石井 寛治氏(東京大
- 2 公開講演会  
(1) 日時：2016年6月3日 16:00～17:30  
場所：本学図書館ホール  
講師：長田 貴仁氏(岡山商科大学経営学部教授)  
テーマ：「『小粒な地方創生』に死角はないか」  
参加者数：56人  
(2) 日時：2016年10月21日  
16:00～17:30  
場所：本学図書館ホール  
講師：須藤 文彦氏(水戸市政策研究会代表・水戸市役所職員)  
テーマ：「地元を作ろう ～人生を豊かにする『地元』たち～」  
参加者数：54人  
(3) 日時：2016年11月9日  
14:20～15:50  
場所：本学図書館ホール  
講師：大谷 武彦氏(経営コンサルタント・従心会倶楽部代表)  
テーマ：「日本の中小企業経営の課題と展望」  
参加者数：56人
- 3 第1回連携公開講座  
期間：2016年6月18日～8月20日  
時間：13:30～15:00  
場所：高崎市中央公民館視聴覚集会室  
参加者数(実数)：68人  
(1) 6月18日  
講師：河藤 佳彦所員(地域政策学部教授)  
テーマ：「地元産業が実現する地方創生」

- (2) 6月25日 行憲法70年のあゆみと立憲主義  
 講師：増田 正所員（地域政策学部教授） -  
 テーマ：「18歳選挙権と選挙制度改革」
- (3) 7月30日 講師：矢野 修一所員（経済学部教授）  
 テーマ：「インフレーションとデフレーション」
- (4) 8月6日 講師：西野 寿章所長（地域政策学部教授）  
 テーマ：「住民参加の電化物語－戦前、戦後における山村電化史と今日的評価」
- (5) 8月20日 講師：米本 清所員（地域政策学部准教授）  
 テーマ：「地方都市の今後：東京一極集中は止まるか」
- 4 第33回公開講座  
 期間：2016年10月6日～11月28日  
 時間：18:30～20:00  
 場所：本学6号館621教室  
 参加者数（実数）：77人
- (1) 10月6日 講師：谷口 聡所員（経済学部教授）  
 テーマ：「民法典大改正と市民生活について」
- (2) 10月12日 講師：福間 聡所員（地域政策学部准教授）  
 テーマ：「運に対する道徳的責任について」
- (3) 10月17日 講師：藤井 孝宗所員（経済学部教授）  
 テーマ：「アジア太平洋地域の地域構造再編と日本：TPPとその後」
- (4) 10月20日 講師：齋藤 康輝所員（地域政策学部教授）  
 テーマ：「『日本国憲法からの手紙』－現
- (5) 10月25日 講師：佐々木 茂所員（経済学部教授）  
 テーマ：「地域発の国際戦略の事例研究Ⅲ－フランスでの調査から」
- (6) 11月10日 講師：森 周子所員（地域政策学部准教授）  
 テーマ：「社会保障制度の国際比較：日本とドイツ」
- (7) 11月15日 講師：片岡 美喜所員（地域政策学部准教授）  
 テーマ：「食と農の今を知る」
- (8) 11月17日 講師：岩崎 忠所員（地域政策学部准教授）  
 テーマ：「地方分権改革のこれまでと今後」
- (9) 11月21日 講師：尾形 祥所員（経済学部准教授）  
 テーマ：「企業不祥事と法～我が国の企業統治をめぐる法的諸問題」
- (10) 11月28日 講師：井上 真由美副所長（経済学部准教授）  
 テーマ：「出光佐三の企業家精神と学校教育」
- 5 地域めぐり  
 (1) 第1回「高崎市の水を知る」  
 日時：2016年7月26日  
 9:30～16:00  
 講師：西野 寿章所長（地域政策学部教授）  
 コース：若田浄水場－はまゆう山荘・烏川水源林－東善寺  
 参加者数：21人  
 (2) 第2回「『すまいるーぷ』をめぐる」

日時：2016年11月8日  
10:00～16:00  
講師：大宮 登所員(地域政策学部教授)，  
すまいるーぷ協議会  
コース：本学(学習会)－IRM－三喜鶏園  
－フレッセイ小鳥店  
参加者数：21人

基調講演2 「再生可能エネルギーによる  
地域再生のための『エネルギー自治』」  
講師 諸富 徹氏(京都大学大学院経済  
学研究科教授)  
ディスカッション  
コメンテーター  
佐藤 徹所員(地域政策学部教授)  
岩崎 忠所員(地域政策学部准教授)

参加者数：41人

## 6 地元学講座

### (1) 第1回「長野堰の開削と高崎城下の成立」

日時：2016年7月27日 18:30～20:00  
場所：本学7号館2階ロビー  
研究発表：長野堰を語りつぐ会  
コーディネーター：大島 登志彦所員(経  
済学部教授)

参加者数：57人

### (2) 第2回「長野堰用水主要施設をめぐる」

日時：2016年11月29日 9:30～16:00  
講師：長野堰を語りつぐ会  
コース：榛名湖畔－長野堰頭首工－小堀川  
サイホン・榛名白川サイホン－円筒  
分水堰

参加者数：40人

## 8 会議等

2016年

4月6日(水) 所員会議

4月27日(水) 運営会議，所員会議

5月11日(水) 運営会議

5月25日(水) 所員会議

6月8日(水) 運営会議，所員会議

7月20日(水) 運営会議

10月12日(水) 運営会議

10月26日(水) 所員会議

12月14日(水) 所員会議

2017年

2月22日(水) 所員会議

## 7 第1回地域経営セミナー

日時：2016年10月14日  
13:30～16:30  
場所：本学7号館72A・B会議室  
テーマ：「これからの行政運営と地域づく  
り－地方分権的地域自治へのア  
プローチ」

基調講演1 「分権時代の地域づくり－計  
画・参加・ひと」

講師 西尾 隆氏(国際基督教大学教養  
学部教授)

## 9 参加者アンケート結果(抜粋)

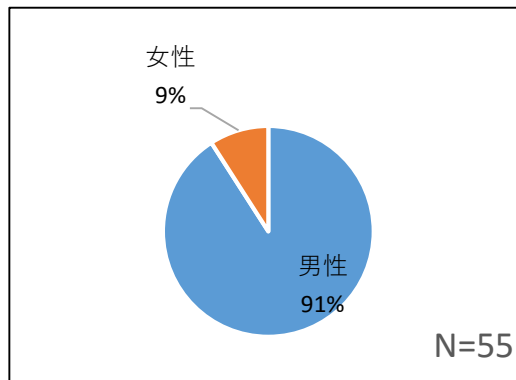
\*次ページから、各事業の参加者アンケー  
トの結果を抜粋でご紹介します。なお、  
第1回連携公開講座の参加者アンケー  
ト結果は、ニュースレター第4号をご  
覧ください。

《第 33 回（2016 年度）公開講座》

○アンケート実施：最終日 最終日の出席者数：56 人 回答者数：55 人（回収率：98.21%）

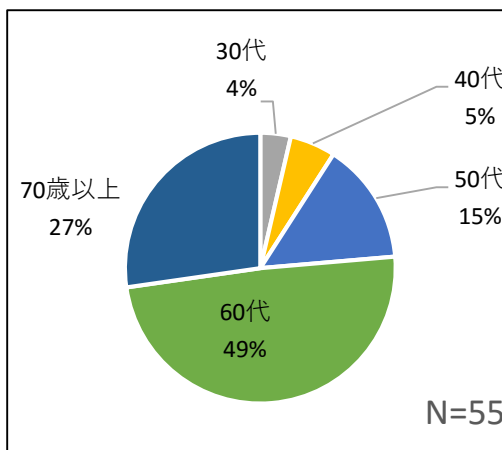
問 1. 性別

男性	50 人
女性	5 人
合計	55 人



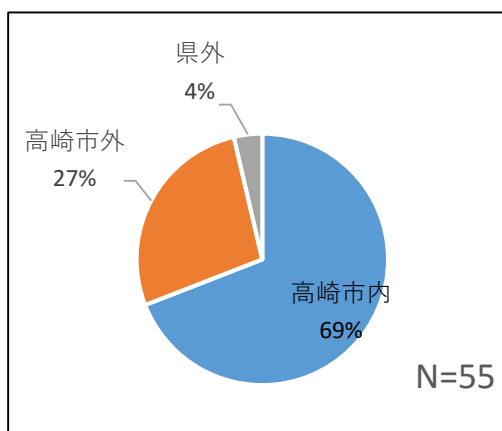
問 2. 年齢

19 歳以下	0 人
20 代	0 人
30 代	2 人
40 代	3 人
50 代	8 人
60 代	27 人
70 歳以上	15 人
合計	55 人



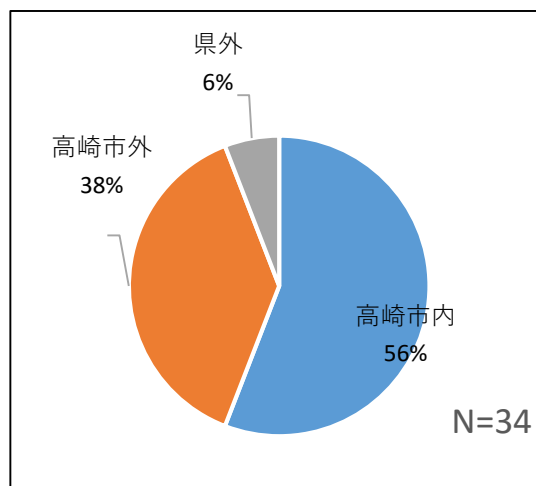
問 3. 居住地

高崎市内	38 人
県内（高崎市外）	15 人
県外	2 人
合計	55 人



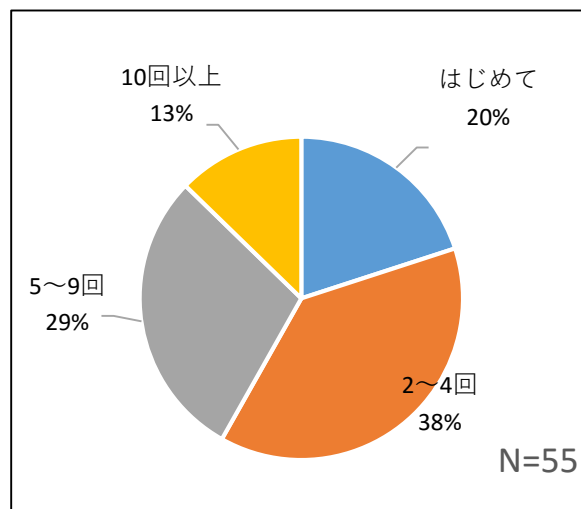
問4. 通勤・通学・所属先の地域 (55人中34人が回答)

高崎市内	19人
県内(高崎市外)	13人
県外	2人
合計	34人



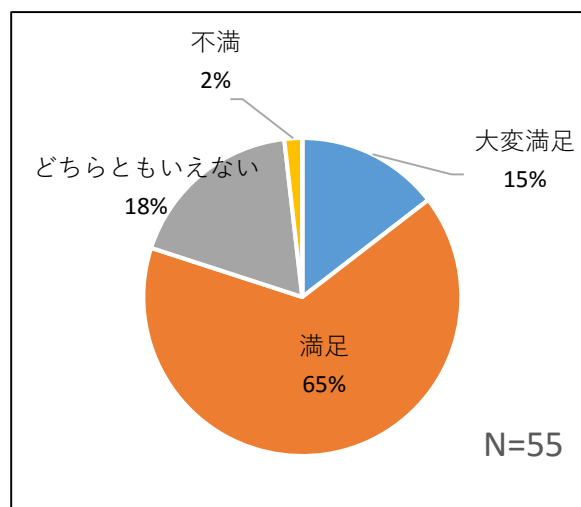
問6. これまでの受講回数

はじめて	11人
2~4回	21人
5~9回	16人
10回以上	7人
合計	55人



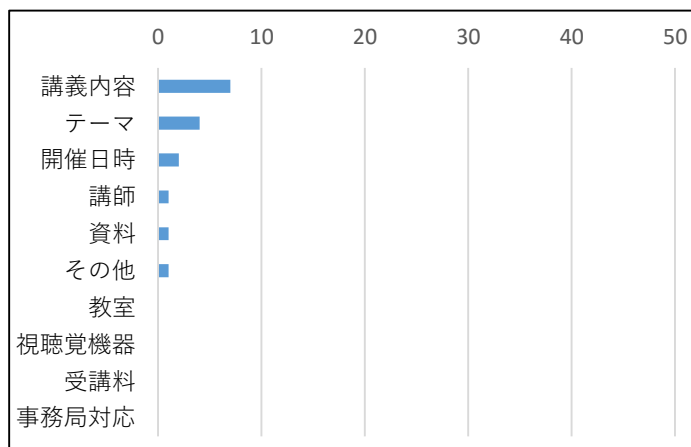
問7. 今回講座の全体的な満足度

大変満足	8人
満足	36人
どちらともいえない	10人
不満	1人
大変不満足	0人
合計	55人



問9. 問6で「どちらともいえない」「不満」と回答の方が挙げた改善すべき点（複数回答可）

講義内容	7人
テーマ	4人
開催日時	2人
講師	1人
資料	1人
その他	1人
教室	0人
視聴覚機器	0人
受講料	0人
事務局対応	0人



\*自由記述の内容： 経済に特化した内容をお願いしたい。

#### 自由記述欄

- ・大学に来る事により、自分の気持ちも上昇するので大変有り難い講座だと思えます。世界経済と株式、日本経済と株式・債券・リートなどのテーマも取り入れていただければ幸いです。
- ・日本と海外の国と比較した内容の講座。社会福祉（北欧と日本の比較）など。
- ・テーマ「地方都市の将来」その中で地域の活性化、推進策について大学が考える理論および実際の例など。やはり、高崎経済大学は高崎の財産です。存在自体またそこでの先生方の考える高崎の将来像など、経済の視点より教えていただきたい。
- ・群馬県 or 高崎市について歴史、経済について。
- ・高崎市の経済政策、工業、商業、農業、不動産等具体例に基づく講義を希望します。
- ・高崎市内の寄席の移りかわり、江戸期から現在に至るまでの変遷を知りたい。
- ・高崎を中心とした町興し取り組みの実情（大学生の取り組みも含めて）、宗教比較（世界の現状）、群馬県の近代キリスト教の歩み
- ・高崎市、群馬県の行政に関する研究（地域研究）をテーマに加えてください。
- ・地域情報が得られるテーマ
- ・西洋哲学史や経済学史（西洋）に大変に興味があります。更なる講座の充実・拡大を強く要望いたします。
- ・経済学の数式・数学の基礎。数学がどのように使われているかの紹介（統計学）
- ・多様性があっておもしろかった。経済学にとらわれず広くお話を楽しみにしています。時々の流れやより多面性を持たせてください。
- ・今回のテーマはかたくるしくない。とっつきやすい講義であった。欠席した回の資料を次回に受けとれる方式はありがたい。
- ・アメリカを含め世界の政治情勢について
- ・外国人観光客が増加していると言うが、成功している地域について。高崎市の対応との比較



により高崎市に不足している点について。

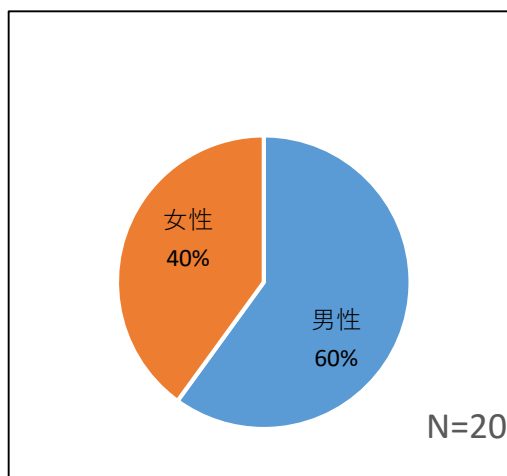
- ・時代に取り残されないよう、その時々の問題になっていることや知っておいた方が良い世界の動きについて、わかりやすく解説してほしい。
- ・今回も休まず出席できました。ボケ防止にも先生達の専門の講義に参考になります。次回も楽しみに出席いたします。
- ・やむをえぬ事情で残念ながら最終回欠席いたしました。次年度も今回の様な色々な分野でのテーマのご講義を希望いたします。貴大学名入りのボールペンをいただきありがとうございました。色々お世話になりました。
- ・金融、歴史、建築など。講師を高経大の先生に限定すると内容に限られると思うので、市民の中に広く求めてはどうでしょうか。
- ・内容が薄い講義があった（公開講座だからかもしれないが）。
- ・公開講座の内容は、市の広報等で市民に還元しても良いと思う。サラリーマン等で出席したくても不可の者（現役世代）がたくさんいると思います。受講されている方の大半（自分も含め）がリタイア組です。
- ・開講の曜日を決めてほしい。ex 毎月曜日とか。出席できない曜日があった。
- ・開始時間は19：00スタートとしてほしい。
- ・椅子が冷たく、硬い。
- ・受講料の払込みについて、郵便局を含めてほしい。近所に他のBKやコンビニが無いため。

《第1回地域めぐり「高崎市の水を知る」（7月26日開催）》

○アンケート実施：開催日 参加者数：21人 回答者数：20人（回収率：95.23%）

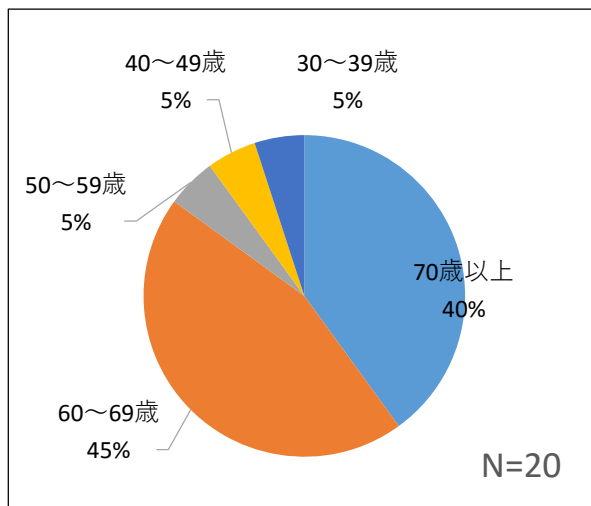
問1-1. 性別

男性	12人
女性	8人
合計	20人



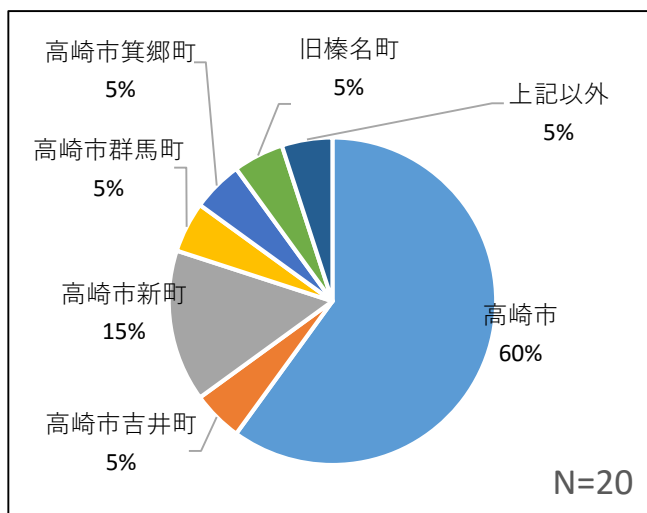
問1 - 2. 年齢

70歳以上	8人
60～69歳	9人
50～59歳	1人
40～49歳	1人
30～39歳	1人
29歳以下	0人
合計	20人



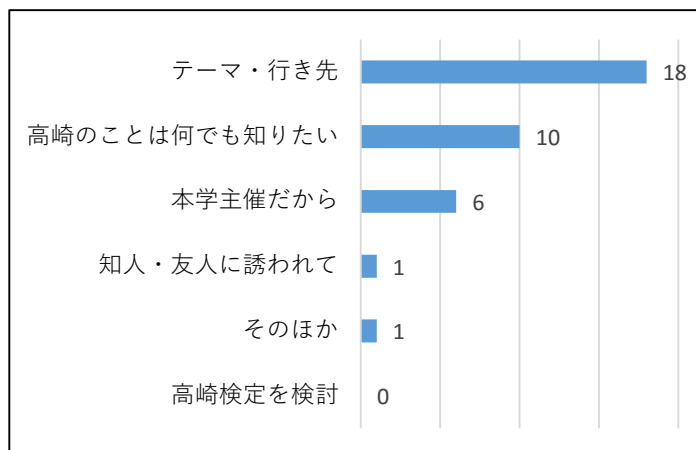
問1 - 3. 居住地

高崎市	12人
高崎市吉井町	1人
高崎市新町	3人
高崎市群馬町	1人
高崎市箕郷町	1人
旧榛名町	1人
上記以外	1人
合計	20人



問3. 参加の動機 (複数回答可)

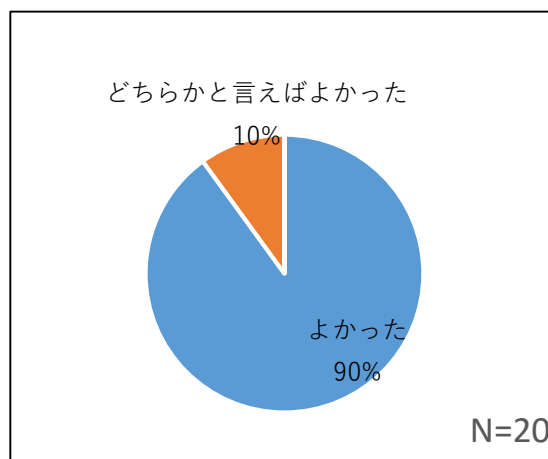
テーマ・行き先	18人
高崎のことは何でも知りたい	10人
本学主催だから	6人
知人・友人に誘われて	1人
そのほか	1人
高崎検定を検討	0人



\* 道の駅に行けると聞いたから。浄水場や高崎市の水について興味があったから。

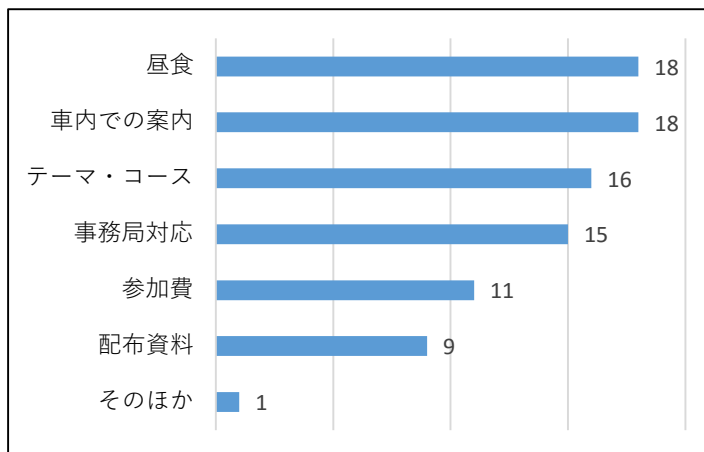
問4. 感想

よかった	18人
どちらかといえばよかった	2人
どちらとも言えない	0人
どちらかといえばよくなかった	0人
よくなかった	0人
合計	20人



問5. 問4で「よかった」「どちらかといえばよかった」と答えた方の「よかった点」（複数回答可）

昼食	18人
車内での案内	18人
テーマ・コース	16人
事務局対応	15人
参加費	11人
配布資料	9人
そのほか	1人



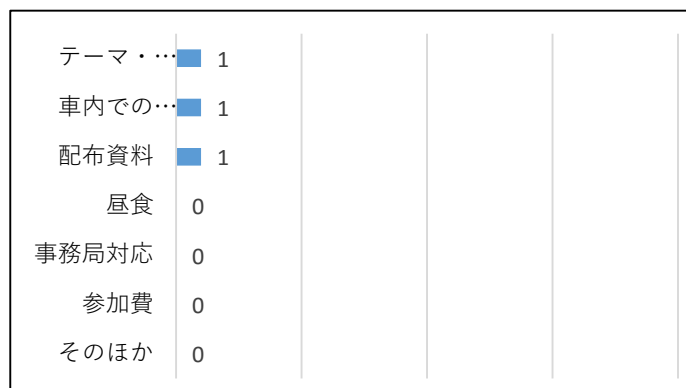
\*水のテーマ, 水源地の現状

\*倉淵の食材が美味でした。 昼食が大変よかった。 \*西野先生の説明

\*古き時代の歴史を知ることができたこと。 \*親切な対応 (事務局対応)

問6. 問4で「どちらかといえばよくなかった」「よくなかった」と答えた方の「よくなかった点」（複数回答可）

テーマ・コース	1人
車内での案内	1人
配布資料	1人
昼食	0人
事務局対応	0人
参加費	0人
そのほか	0人



\*雨の中, 多方面回った。

\*クーラーがきつい (車内での案内)

問7. 「地域めぐり」にまた参加したいと答えた方のコメント（希望する行き先等）（抜粋・一部改変）

- ・地域創生のかかわり，高崎のものづくり，オンリーワン（他市に向けて）
- ・歴史，文化，経済等いろいろの面での変遷，拡大がなされておりますが，その1つ1つの中に興味を感じます。新町の屑糸紡績所など。
- ・観音山の山林維持と旧カッパピア跡地の効果的利用～課題・倉賀野店の保存と今後の活用，旧倉淵村の経済振興対策
- ・高崎に住んでいても何も知らずとして来なかった事に反省しました。知的に案内して下さいたのでとても参考になりました。商業の町高崎と文京の町前橋との対比に興味を持ちました。
- ・近世から現代までの高崎を中心とした歴史について知りたい。
- ・廃線跡をめぐる。
- ・地域の歴史に関することももっと深く知りたい。
- ・1.上野三碑巡り 2.高崎の古墳巡り 3.高崎の特長ある企業巡り
- ・歴史の史跡巡り

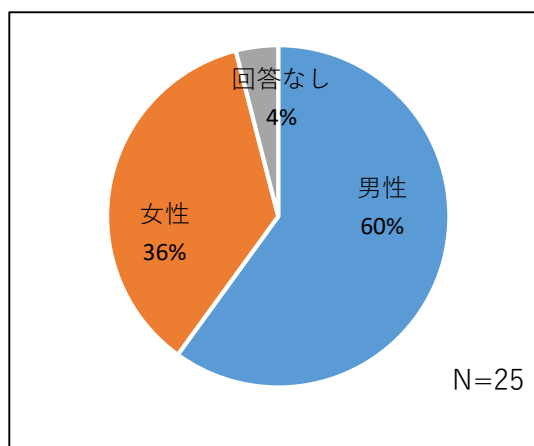
《第2回地域めぐり「『すまいるーぷ』をめぐる」（11月8日開催）》

○アンケート実施：開催日 参加者数：30人（一般21人，学生9人）

回答者数：25人（回収率：83.3%）

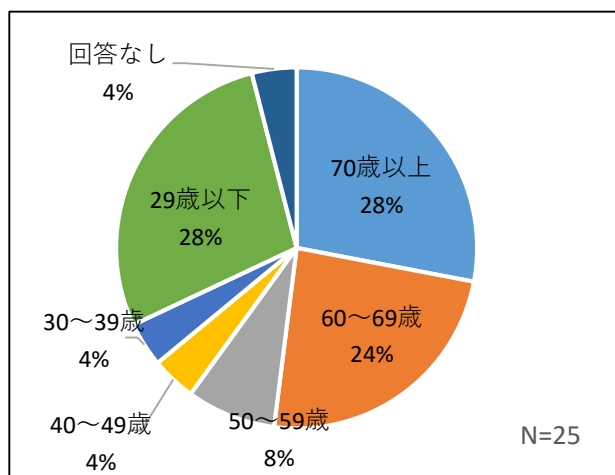
問1-1. 性別

男性	15人
女性	9人
回答なし	1人
合計	25人



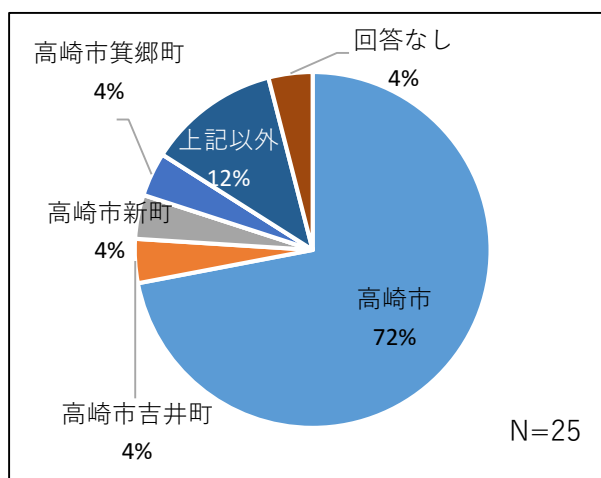
問1-2. 年齢

70歳以上	7人
60～69歳	6人
50～59歳	2人
40～49歳	1人
30～39歳	1人
29歳以下	7人
回答なし	1人
合計	25人



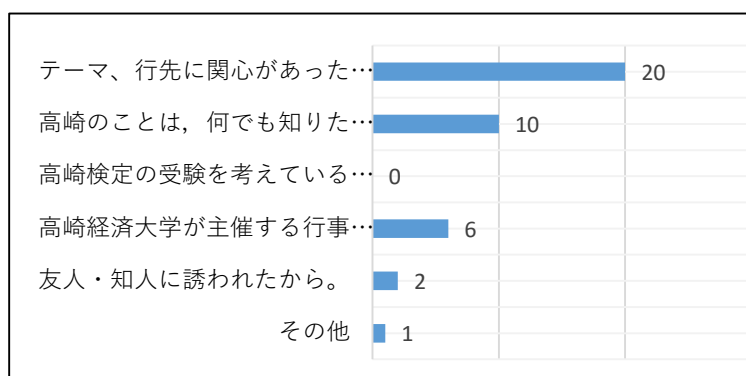
問1-3. 居住地

高崎市	18人
高崎市吉井町	1人
高崎市新町	1人
高崎市群馬町	0人
高崎市箕郷町	1人
旧榛名町	0人
上記以外	3人
回答なし	1人
合計	25人



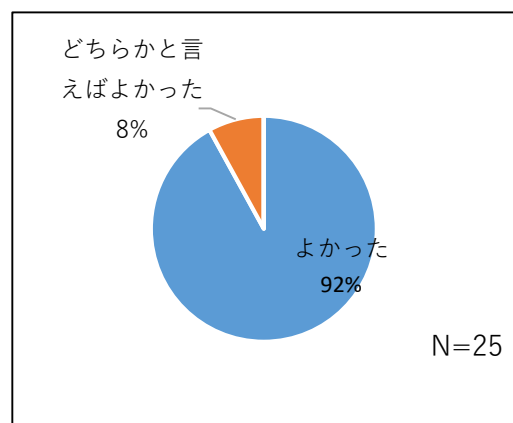
問3. 参加の動機 (複数回答可)

テーマ・行き先に関心があつた	20人
高崎のことは何でも知りたい	10人
高崎検定の受験を考えているから	0人
高崎経済大学が主催する行事だから	6人
友人・知人に誘われたから	2人
そのほか	1人



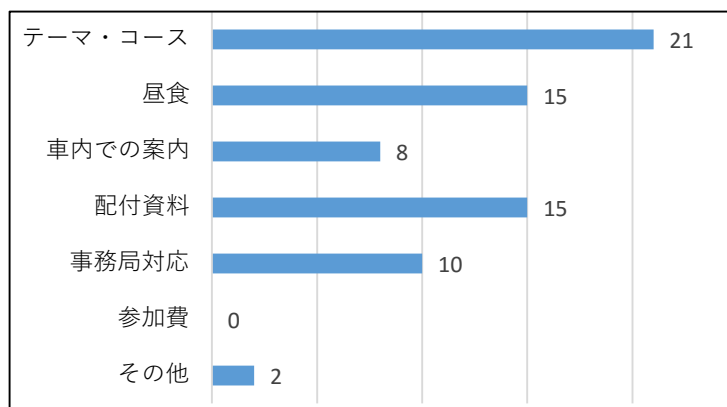
問4. 感想

よかった	23人
どちらかと言えばよかった	2人
どちらとも言えない	0人
どちらかと言えばよくなかった	0人
よくなかった	0人
合計	25人



問5. 問4で「よかった」「どちらかと言えばよかった」と答えた方の「よかった点」(複数回答可)

テーマ・コース	21人
昼食	15人
車内での案内	8人
配付資料	15人
事務局対応	10人
参加費	0人
その他	2人



- \* 出発前に約 90 分事前講義で予習ができたことがよかった。
- \* 余った食材を捨てずに生かすという考えが好きだ。
- \* 企業内やグループ内だけではなくライバルでも環境のため協力し合っていると知れて素敵だと思った。活動が広がるとよい。周りに紹介します。

問7. 「地域めぐり」にまた参加したいと答えた方のコメント(希望する行き先等)(抜粋・一部改変)

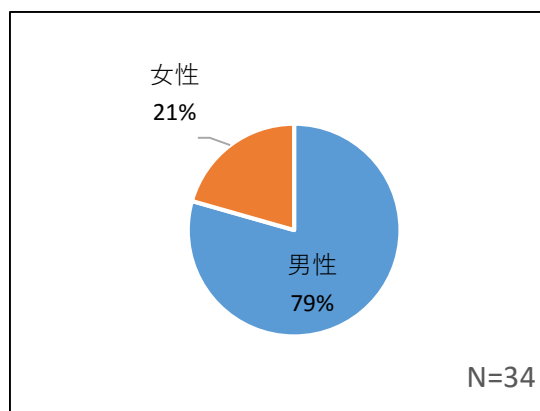
- ・高崎市内出身の有名人, 明治, 大正, 昭和生まれの人物探訪
- ・高崎の歴史名所
- ・ガトーフェスタハラダに行けなかったので, 次回は行きたいと思います。また, 高崎地域の歴史に関する場所へ案内していただきたい。
- ・高崎に 50 年近く住んでおりますが, 仕事などであまり知らないことが多く, 今日のように実際に自分の足で目で見るとは大変勉強になり, 少し地域のことがかかることでこれから参加できるが増えるのではないかと思います。歴史などが加わればより一層楽しいと思います。
- ・今回のような地域と企業の連携事業などがあれば知りたいと思います。
- ・高崎の魅力を知ることのできるコース
- ・高崎や群馬は山が沢山あるのでそれを生かしたテーマ
- ・身近な環境問題(群馬の水資源, 森林資源)

《第1回地元学講座「長野堰の開削と高崎城下の成立」(7月27日開催)》

○アンケート実施：開催日 参加者数：57人 回答者数：34人(回収率：59.6%)

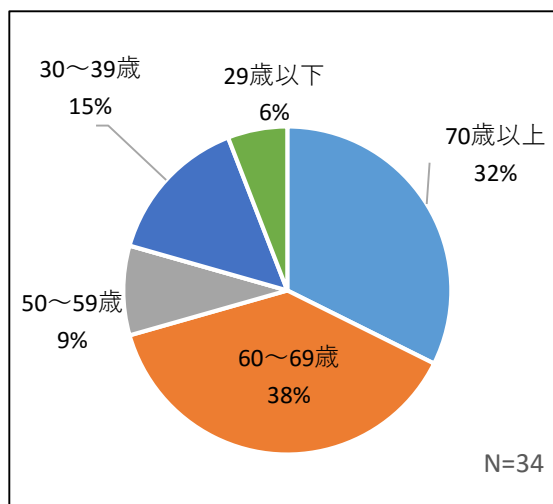
問1-1. 性別

男性	27人
女性	7人
合計	34人



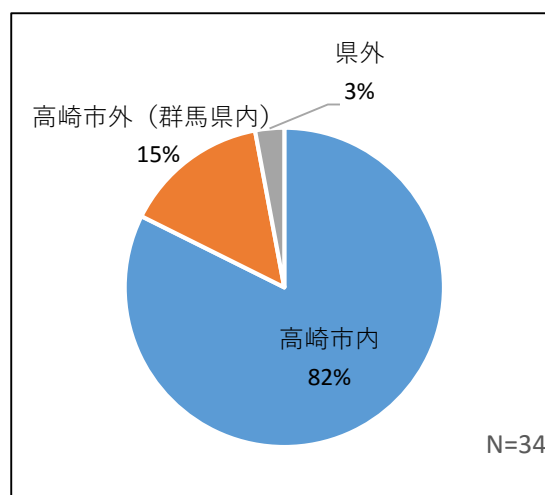
問1-2. 年齢

70歳以上	11人
60~69歳	13人
50~59歳	3人
40~49歳	0人
30~39歳	5人
29歳以下	2人
合計	34人



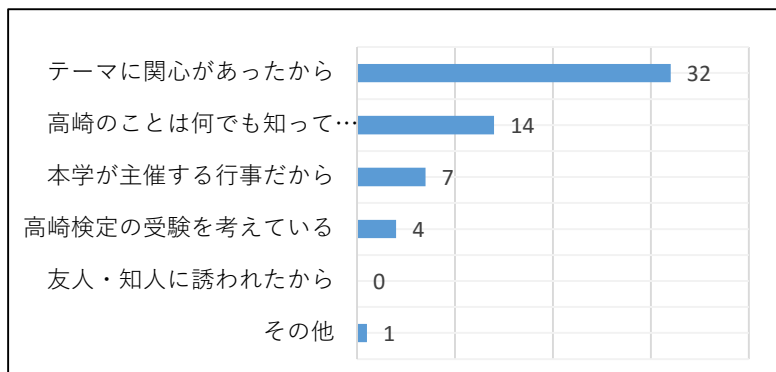
問1-3. 居住地

高崎市内	28人
高崎市外(群馬県内)	5人
県外	1人
合計	34人



問3. 参加の動機（複数回答可）

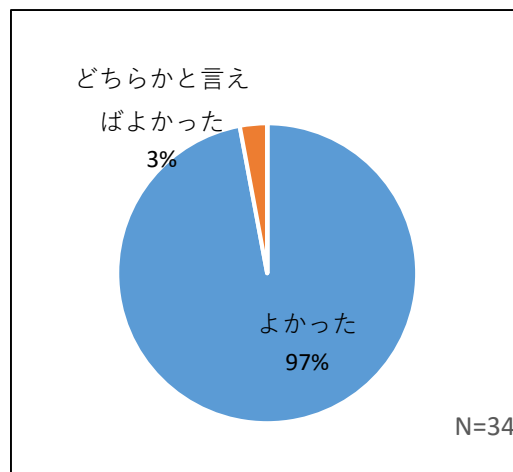
テーマに関心があったから	32人
高崎のことは何でも知っておきたい	14人
本学が主催する行事だから	7人
高崎検定の受験を考えている	4人
友人・知人に誘われたから	0人
その他	1人



\* 真田の研究をしているので。 長野堰のことが好きだから。

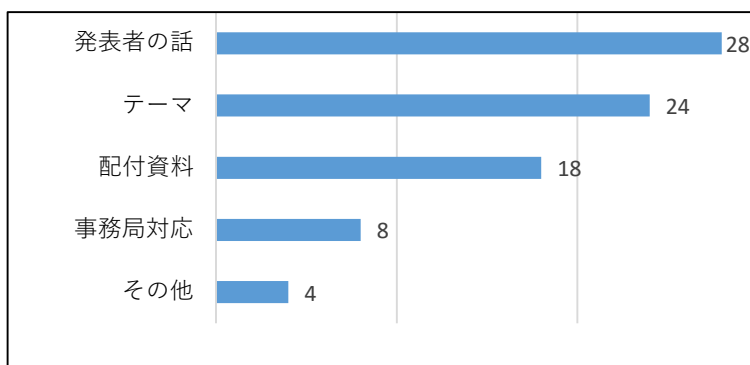
問4. 感想

よかった	33人
どちらかと言えればよかった	1人
どちらとも言えない	0人
どちらかと言えればよくなかった	0人
よくなかった	0人
合計	34人



問5. 問4で「よかった」「どちらかと言えればよかった」と答えた方の「よかった点」（複数回答可）

発表者の話	28人
テーマ	24人
配付資料	18人
事務局対応	8人
その他	4人



\* ジオラマの説明がよかった。



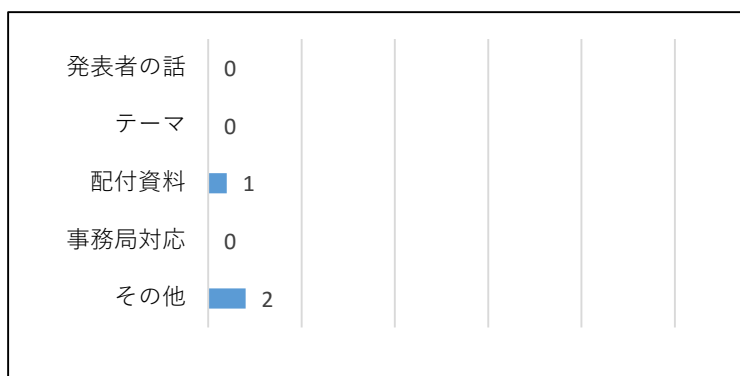
\*いろいろお調べで、ミニチュアも良く作ってある。

\*長野堰を語りつぐ会の会長の熱弁、ジオラマ、マップ、ガイドブック、レジメがよかった。

\*ポイントすべて見学したが、点が線、面になった。解りやすかった。ジオラマの常設ができるとう市外の人に説明し易く、「へえ！」と驚かれるのでは。

問6. 問4で「どちらかと言えばよくなかった」「よくなかった」と答えた方の「よくなかった点」(複数回答可)

発表者の話	0人
テーマ	0人
配付資料	1人
事務局対応	0人
その他	2人



\*少し裏付けにとぼしいところがあった。

\*机が欲しかった。

問7. 来年度以降に取り上げてもらいたい高崎市の歴史や民俗、現状の問題や課題。ご意見。(抜粋・一部改変)

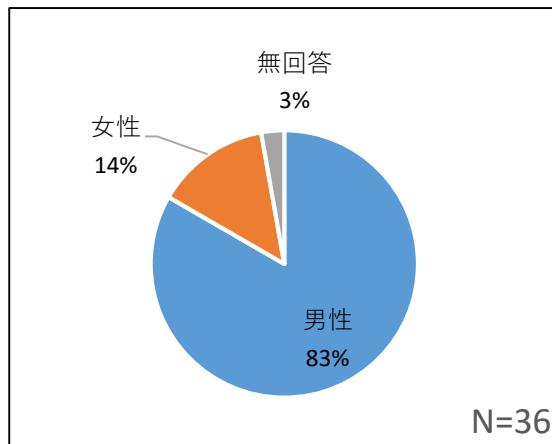
- ・江原源右衛門重久、滝川用水に関する長野堰との関連(天狗岩用水を含む)など
- ・上毛三碑の時代の高崎の歴史や風俗、なぜこの地域におこったのかその背景
- ・縄文、平安、室町、戦国その時代ごとの高崎はどんな様子だったのか、産業や文化もからめた高崎の歴史
- ・真田丸と群馬県(やなせ大輔先生を希望)。名胡桃城についても触れてもらいたい。
- ・長野堰をめぐるツアー
- ・もっと長野堰を掘り下げてほしい
- ・明治、大正、昭和初期の歴史について
- ・小栗上野介。今日の礎は彼にある、正しい客観的歴史を知らしめて欲しい。勝海舟の評価に対してはあまりにもひどいと思う。
- ・座学だけでなく、施設見学も考えていただけたら良いと思います。
- ・年表が私もほしいです。
- ・ゼミナールを開催する時は新聞に掲載してください。

《第2回地元学講座「長野堰用水主要施設をめぐる」(11月29日開催)》

○アンケート実施：開催日 参加者数：40人 回答者数：36人(回収率：90.0%)

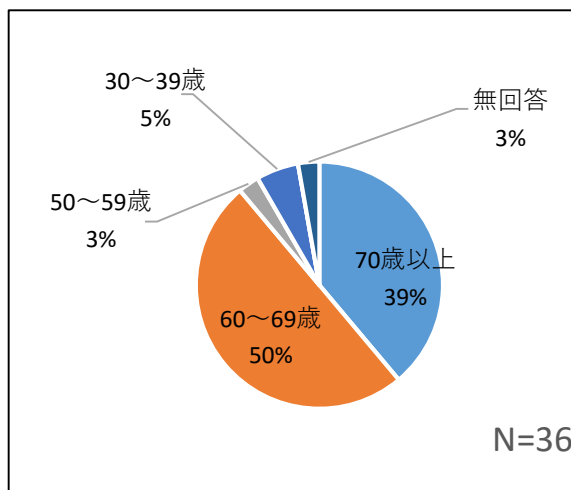
問1-1. 性別

男性	30人
女性	5人
回答なし	1人
合計	36人



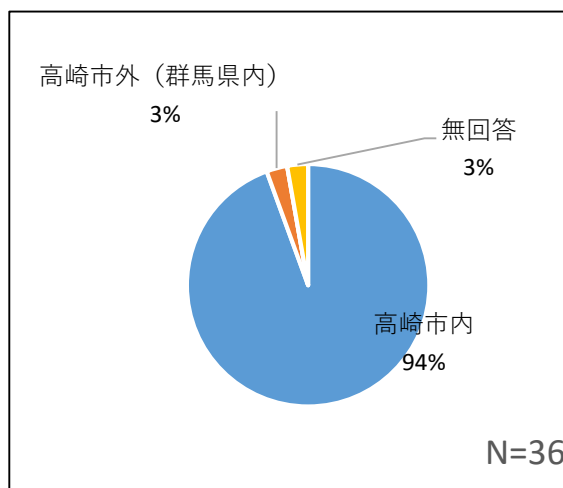
問1-2. 年齢

70歳以上	14人
60~69歳	18人
50~59歳	1人
40~49歳	0人
30~39歳	2人
29歳以下	0人
回答なし	1人
合計	36人



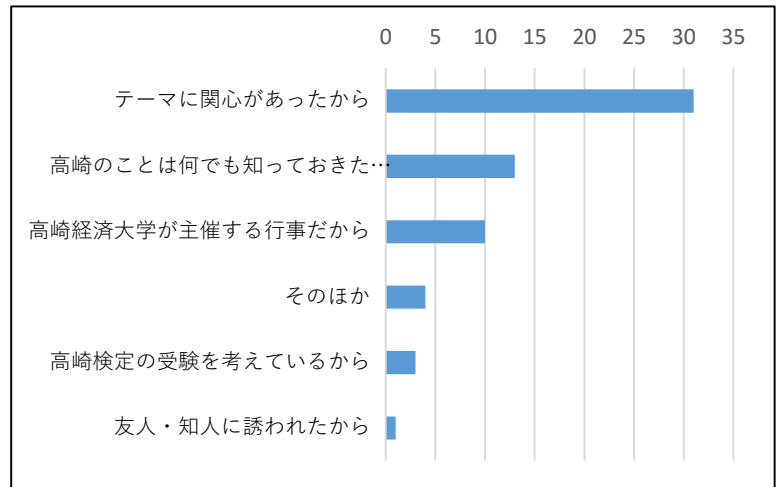
問1-3. 居住地

高崎市内	34人
高崎市外(群馬県内)	1人
県外	0人
回答なし	1人
合計	36人



問3. 参加の動機 (複数回答可)

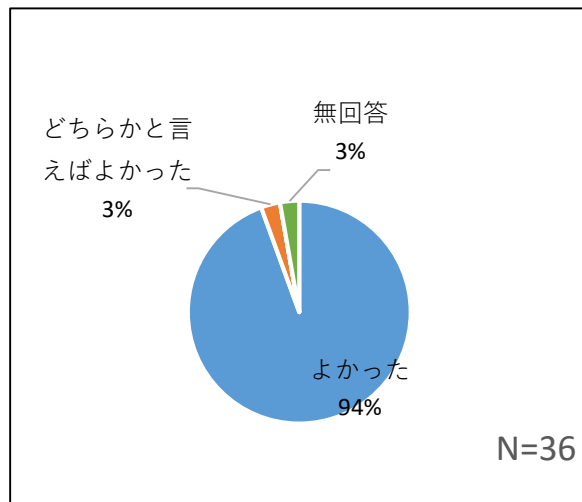
テーマに関心があったから	31人
高崎のことは何でも知っておきたい	13人
高崎経済大学が主催する行事だから	10人
そのほか	4人
高崎検定の受験を考えている	3人
友人・知人に誘われたから	1人



- \*長い間高崎を離れて戻ってきた時、川の水の多さに驚き、興味を持ったので。
- \*小中学校時、良く遊びました。
- \*以前、高崎市公民館主催の同じテーマに参加して、その後どう変わったか知りたくて。

問4. 感想

よかった	34人
どちらかと言えばよかった	1人
どちらとも言えない	0人
どちらかと言えばよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	1人
合計	34人



問5. 問4で「よかった」「どちらかと言えばよかった」と答えた方の「よかった点」（複数回答可）

現地・車内での案内	32人
テーマ・コース	29人
事務局対応	25人
配布資料	17人
昼食	15人
参加費	15人
そのほか	4人

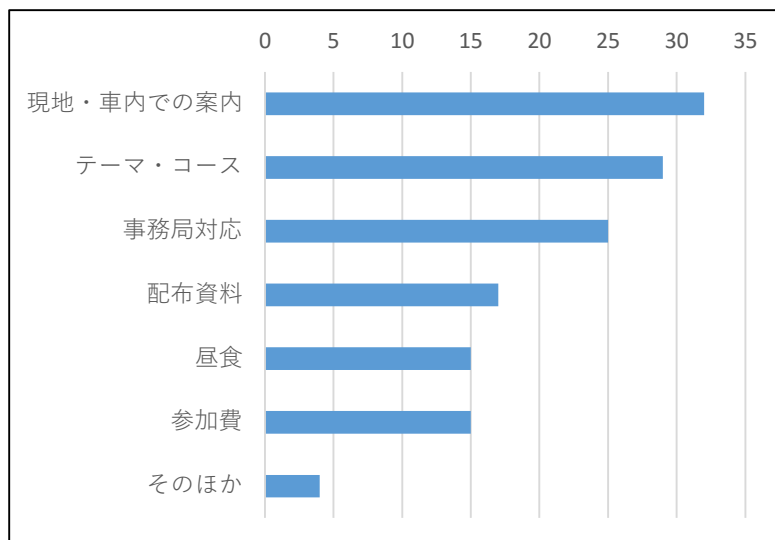
\* 時期

\* お2人の講師

\* 一人では見られない所を

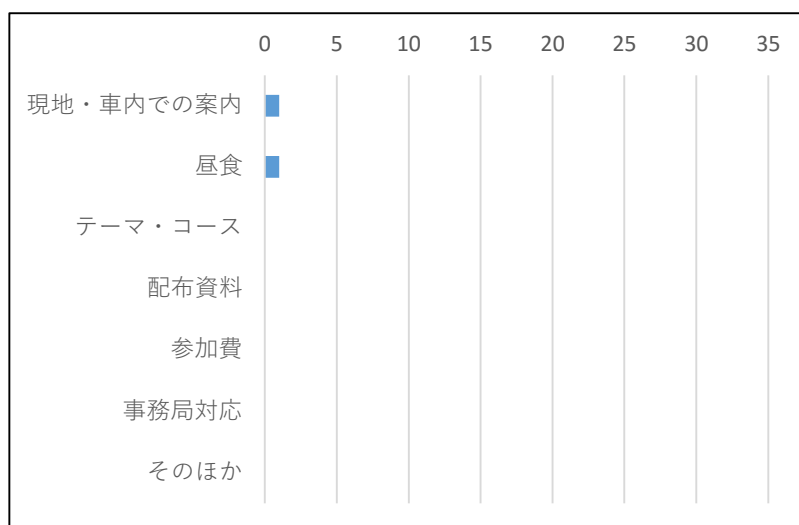
説明して頂いてよく分かりました。

\* ブラタモリっぽくて楽しかったです。



問6. 問4で「どちらかと言えばよくなかった」「よくなかった」と答えた方の「よくなかった点」（複数回答可）

現地・車内での案内	1人
昼食	1人
テーマ・コース	0人
配布資料	0人
参加費	0人
事務局対応	0人
そのほか	0人



問7. 来年度以降に取り上げてもらいたい高崎市の歴史や民俗、現状の問題や課題。ご意見。（抜粋・一部改変）

- ・ 地元産農産物や提供物を地元の人たちに買って貰う、利用して貰うために取組む地産物、サービスに何があるか
- ・ 長野氏、箕輪城の歴史散歩
- ・ 戦国城址（鷹留、松山、箕輪など）
- ・ 都市部と田舎地域の差
- ・ 倉淵、榛名、新町地区は旧市街区から遠く、合併前から歴史的な知識がないので取り上げて

もらいたい。

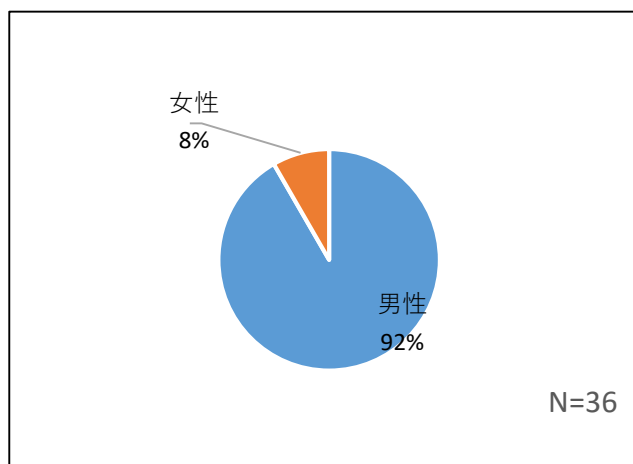
- ・ 和田, 倉賀野, 烏川水運などの歴史を知りたいので企画をおねがいしたい。
- ・ 散策講座は暖かい時期の開催が望まれる。歴史, 民俗に関する講座を幅広く回数多く希望します。
- ・ 有機野菜農家等の取組。
- ・ 高崎学の向上
- ・ 高崎市と合併した町村の中で吉井が一番地味な存在なので, 吉井方面の歴史など取り上げたいかなと思います。(甘楽を含めても)
- ・ 市内の有名神社仏閣など。市内の有名な句碑・歌碑など。
- ・ 高崎市内の企業。
- ・ 高崎炭田(亜炭)と富岡製糸場との関係。高崎五万石騒動。黒岩の風穴, 新町紡績所。
- ・ 地元のことを知りたい。歴史的に, 人物的に, 産業的に。
- ・ 群馬交響楽団の歴史, 高崎市内公共施設巡り。(群馬音楽センター, 市役所, 消防署, 総合文化センター等)
- ・ 旧市街地をもっと知りたくて。高崎学は周辺の新市内が多くて, それも大切ですが高崎市の昔が知りたい。
- ・ 先生方の研究されている件について教えていただければ幸いです。個々の先生のカラーある講演を楽しみにしています。
- ・ 今日は大変お世話になりました。初めて知ることばかりでした。勉強になりました。
- ・ 外での案内の時に2つにわけマイクを使ってもらいたい。聞こえない所も多い。
- ・ 平日はさけてもらいたい。土曜か日曜日に開催してもらえるとありがたいです。
- ・ 最近ダムカードが流行しています。栃木県では頭首工もダムカードを作成・配布しておりますので, ぜひ長野堰頭首工も頭首工カードを作成していただき, 長野堰ファンの裾野を広げていただきたい!

《地域経営セミナー「これからの行政運営と地域づくり」(10月14日開催)》

○アンケート実施: 開催日 参加者数: 41人 回答者数: 36人(回収率: 87.8%)

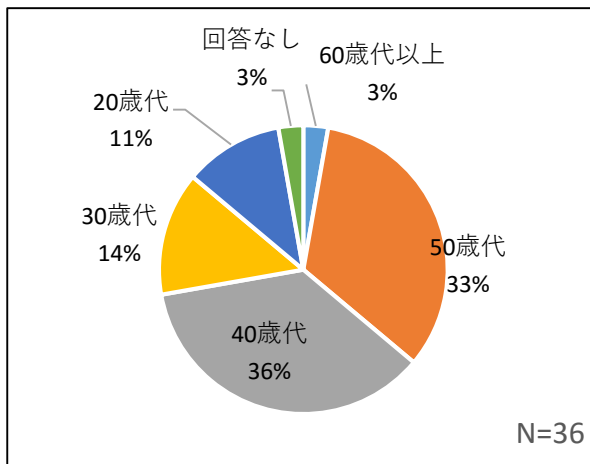
性別

男性	33人
女性	3人
合計	36人



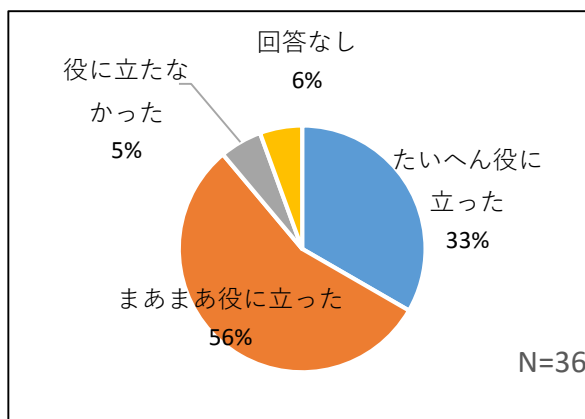
年齢

60歳代以上	1人
50歳代	12人
40歳代	13人
30歳代	5人
20歳代	4人
回答なし	1人
合計	36人



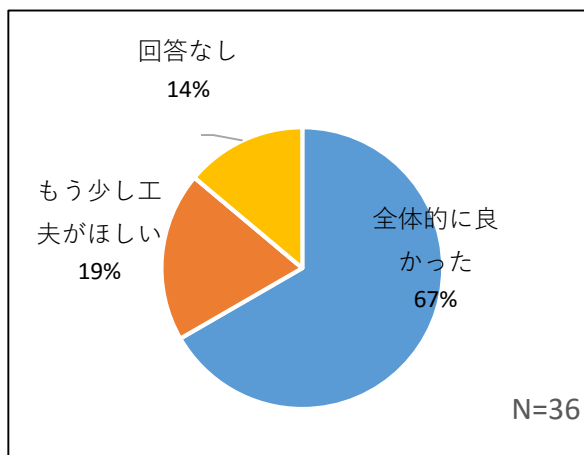
問3. 本日のセミナーは、日頃の業務に役立ちましたか。

たいへん役に立った	12人
まあまあ役に立った	20人
役に立たなかった	2人
回答なし	2人
合計	36人



問4. 本日のセミナー全体の企画について、どのように評価されますか。

全体的に良かった	24人
もう少し工夫がほしい	7人
良くなかった	0人
回答なし	5人
合計	36人



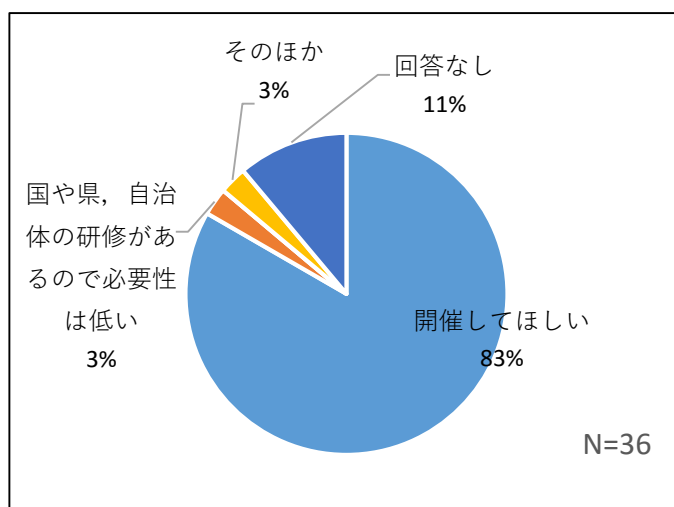
「もう少し工夫がほしい」「良くなかった」と回答した方の意見（抜粋・一部改変）

- ・各パートの時間管理

- ・ 諸富先生の再生可能エネルギーのお話は、自治体の新たな役割という点でとても興味深いものだったが、セミナー全体の流れの中で、少々別系統の分野の扱いに移って行ってしまった。その為、ディスカッションでも掘り下げていくところが少なく残念だった。
- ・ パネルディスカッションの質疑が大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・ ディスカッションについてもう少し時間を確保いただきたいです。
- ・ 時間スケジュールの講義時間多くして欲しい。
- ・ 初の試みとしてまずまずの印象です。事前の告知をしっかりと行うことにより多くの自治体職員を目にとまり参加者も増えると思います。

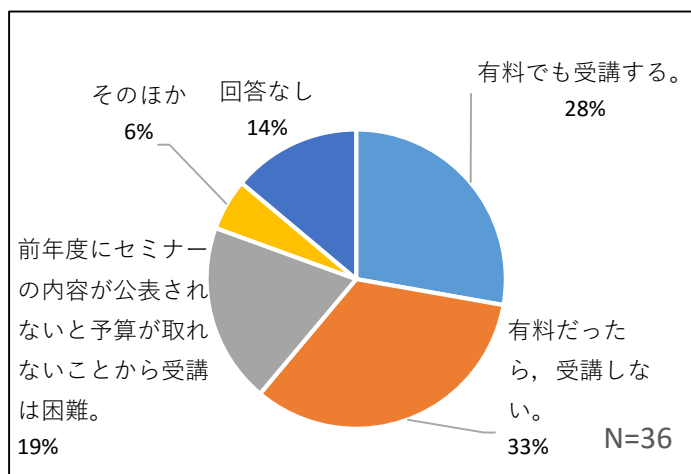
問5. こうした自治体の方々を対象としたセミナーを今後も開催したほうがよいでしょうか。

開催してほしい	30人
国や県、自治体の研修があるので必要性は低い	1人
開催する必要はない	0人
そのほか	1人
回答なし	4人
合計	36人



問6. 有料化について（受講料として1,000円～2,000円を想定）

有料でも受講する	10人
有料だったら受講しない	12人
前年度にセミナーの内容が公表されないと予算が取れないことから受講は困難	7人
そのほか	2人
回答なし	5人
合計	36人



\* セミナーの内容によっては個人負担でも参加する。

\* 内容により判断したい。（公費で支出することを考えるとある程度業務に関係している必要あり）

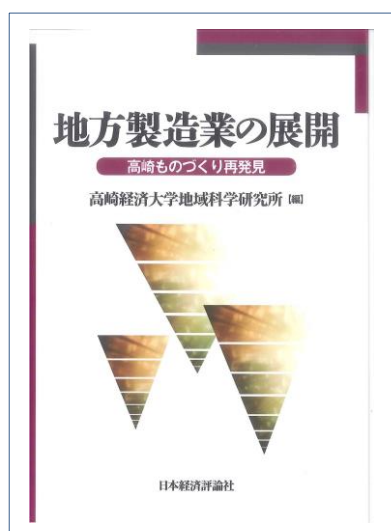
問7. 今後、地域経営セミナーのテーマとして取り上げてもらいたいテーマ

- ・政策決定のプロセス・政策ロジックモデル
- ・外国人との共存
- ・やはり地域づくりに関する講座をおねがいします。
- ・人口減少対策について
- ・「地方創生」
- ・過疎対策
- ・携わる業務のセミナーは、全国・関東・県単位で各協会・団体で開かれることから特になし。

\* \* \* \*

### 研究プロジェクト新刊案内

旧産業研究所の最終研究プロジェクトとして開始し、地域科学研究所に引き継がれた「高崎市製造業の存立基盤に関する研究」の研究成果が、『地方製造業の展開－高崎ものづくり再発見－』として、日本経済評論社から刊行されました（2017年3月30日発行、定価3,500円＋税）。



本書は、総論編（4章）・企業編（6章）・寄稿・資料編で構成されています。総論編では、高崎市および群馬県の製造業の特色について、

企業編では、高崎市内の製造業7社についてプロジェクトメンバーがヒアリング調査を行い、まとめています。資料編は、高崎商工会議所の会報「商工たかさき」に掲載された企業紹介のページを転載することにより、本プロジェクトで取り上げきれなかった高崎市の製造業の多様な姿を概観しました。そして、本ニューズレターの冒頭で西野所長が触れているように、このプロジェクトのきっかけとなった高崎市立高崎経済大学附属高等学校のスーパーグローバルハイスクールの取組みについて、同校の黒田圭一教諭が、「地域の製造業に学んで」と題して寄稿してくださいました。

#### 【目次】

##### 《総論編》

- 第1章 群馬県と県内都市における製造業の動向 <西野寿章/村山元展>
- 第2章 アンケートにみる群馬県製造業の動向 <米本 清>
- 第3章 高崎市における製造業の動向と振興策 <天羽正継>
- 第4章 高崎市製造業の諸相 <西野寿章>



《企業編》

第 5 章 絶えざる創業の軌跡：共和産業<井上真由美>

第 6 章 燃焼科学システムの創造：キンセイ産業<西野寿章>

第 7 章 「高崎のものづくり」と産学官連携：山崎製作所<佐藤英人>

第 8 章 中小プレスメーカーの環境と戦略－斉藤プレス工業とシミズプレス－<藤井孝宗>

第 9 章 経営指針と従業員育成：山岸製作所<永田 瞬>

第 10 章 プレス加工・金型メーカーの海外戦略と地域貢献－サイトウティーマ－<矢野修一>

《寄稿》地域の製造業に学んで<黒田圭一>

《資料編》高崎市の企業紹介

地域科学研究所動静

- ・地域科学研究所特定研究員の本年度研究成果報告会を2月22日に開催しました。特定研究員は、本学の博士後期課程を修了・満期退学した者および本学の任期制助手のうち、本研究所で研究活動を行っている者です。
- ・研究プロジェクト「日本蚕糸業の縮小過程と世界遺産地域の振興」（「富岡製糸場と群馬の蚕糸業Ⅱ」）（代表者：佐滝剛弘特命教授）の第2回研究会を3月1日に開催しました。10月に開催した第1回に引き続き、コメンテーターに石井寛治氏（東京大学名誉教授）をお招きし、研究報告・討論を行いました。
- ・地域科学研究所紀要「産業研究」第52巻第2号を3月15日に発行しました。今号では、論文3編、研究ノート1編、書評1編を掲載しました。論文等は、本学ホームページ(リポジトリ)からご覧いただけます。

編集後記

大学事務職員としての1年が慌ただしく過ぎました。当初は環境の変化に戸惑いましたが、現在は僅かながら心に余裕ができてきたと感じております。

地域科学研究所の事業で特に印象深かったことは、長野堰用水の世界かんがい施設遺産登録と時を同じくして、「地元学講座」で取り上げたことです。参加者と共に長野堰用水の主要施設をめぐり、ご意見やご感想を直接伺うことで、本学が行うべき地域貢献事業の新たな方向性を感じることができました。

また、研究プロジェクトの成果を刊行する作業に携われたことは、とても良い経験でした。本を作り上げるためには、執筆者は勿論のこと、編集等の各作業において多くの方々の力が必要だということを改めて思い知らされました。

微力ではありますが、来年度も地域科学研究所の事務局員として、様々な事業に尽力してまいりますので、宜しく願いいたします。(SK)

高崎経済大学地域科学研究所

ニューズレター No.5

発行 2017年3月30日

群馬県高崎市上並榎町 1300(〒370-0801)

TEL(027)344-6267 FAX(027)343-7103

E-mail : chiikikagaku@tcue.ac.jp

©TIRS